



2026年5月28日

日本鉄道労働組合連合会

竹詰ひとし参議院議員

決算委員会で鉄道の潤滑油調達、 費用便益分析（B/C）等について質疑！



JR連合「21世紀の鉄道を考える議員フォーラム」に所属する竹詰ひとし参議院議員は5月27日、参議院決算委員会の一般質疑において、鉄道予算の拡充、鉄道運賃制度の見直し、鉄道の潤滑油調達、費用便益分析（B/C）等について質疑を行った。

竹詰議員は冒頭、「整備新幹線に関わる鉄道局予算を拡充するべき」「燃料費の高騰を踏まえた鉄道運賃のインフレ対応制度を設けるべき」と金子恭之国土交通大臣に主張した。

続いて、中東情勢を受け、鉄道の車両メンテナンスに必要な潤滑油等の安定的な調達について、実態把握と有効な対処を求めた。国土交通省の五十嵐徹人鉄道局長は、「4月以降、地方運輸局と連携し、鉄道事業者に対し、潤滑油等の資材調達状況を調査しており、相談、要請を受けた場合は、流通における目詰まり箇所を特定のうえ、必要に応じて経済産業省に対応を要請するなど、鉄道事業の運営に影響が出ないよう対応している」「現時点で鉄道事業者から潤滑油等の不足により列車の運行に支障が生じているとの報告は受けていない」という旨を答弁した。

そして、過日開催されたJR連合第15回政策シンポジウムのテーマであった鉄道事業における費用便益分析（B/C）について、「貨幣換算してBに計上できない便益が多数ある中で、B/Cの精緻な数値化には本質的な限界があり、この数字を絶対的なものとして権威化しないように注意すべき」と主張し、金子大臣より「B/C分析以外の視点で、貨幣換算することができない効果も含まれている。有識者意見、社会情勢や最新の知見等を踏まえ、評価手法の改善に取り組む」旨の答弁を引き出した。

引き続き、関係議員との連携を深めて、取り組みを進めていく。